

## 講演情報

一般口演

**術式、外科処置、骨誘導、骨造成、GBR、シミュレーション、ガイドド サージェリー、診  
査・診断**

2019年9月21日(土) 09:00 ～ 09:50 第4会場 (福岡国際会議場 4F 404+405 +406)

座長：玉木 大之 (日本大学松戸歯学部付属病院口腔インプラント科)

### [O-1-4-2] インプラント上部構造装着後の歯槽骨の形態変化についての解析

相澤八大, 木下三博, 柳時悦, 渡辺孝夫, 尾崎忠克, 岡吉孝, 荻原道, 奥寺元  
(東京形成歯科研究会)

I 目的： インプラント療法は可撤性床義歯と比較し、咬合負荷により骨梁の改善という歯槽骨内部の構造変化がみられるとの報告がある。また、天然歯の歯根周囲では過度の咬合負荷により骨隆起が発現するとの報告がなされており、天然歯群においては観察が進んでいるが、インプラント群ではこのような形態分析が少ない。このことからインプラントの咬合負荷により歯槽骨形態に変化が生じることが考えられる。歯槽骨の形態変化は内部構造の骨梁変化と同様にインプラントの長期機能維持と関連していると考えられるため、インプラント上部構造装着後に生じる歯槽骨の形態変化について調査解析を行うこととした。

II 材料および方法： 同一被験者 (N=14) においてインプラント上部構造装着時および5年経過時のStudy modelを作成し、GBR angle計測法 (骨再生誘導法治療後の経年的形態変化：日本口腔インプラント学会誌21巻3号) に準じ、下顎臼歯部舌側の歯槽骨形態の変化について調査解析を行った。

III 結果： インプラント上部構造装着時および経年時において下顎臼歯部舌側の歯槽骨の拡大、縮小について解析を行ったところ、吸収傾向がみられるものの両者に有意差は認められなかった。

IV 考察および結論： インプラント上部構造を装着し咬合負荷を与え調査を行ったが、咬合負荷の強い天然歯周囲に発現する骨隆起と違い、インプラント周囲の下顎臼歯部舌側の歯槽骨形態には明らかな変化は認められなかった。調査時経過年数の考慮が必要であるが、天然歯とインプラントにおいて咬合負荷に対する歯槽骨の反応メカニズムに違いがある可能性があり、今後の検討が必要と考えられた。

(倫理審査委員会番号17000114 承認 承認番号19101)